

営農情報

土壌診断

植付けするその前に…
土の健康診断を
してみませんか？

◆土壌診断とは

土壌診断とは、土に含まれる肥料成分を化学的に測定し、土壌中の養分状態を調べることで、土壌に残留する肥料成分を活用できれば、水稻や野菜等の各作物の施肥基準量と照らし合わせた適正施肥により、栽培改善や肥料コストの低減につなげることが出来ます。しかし、土壌の採取が不適切な場合、分析結果に影響が出て誤った診断になる可能性があります。均一な土壌を採取することが適正な土壌診断への第一歩になります。

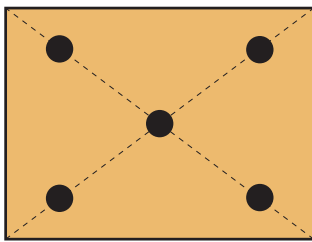
通常、作付け前に土壌診断を行うことが一般的ですが、問題が起きた時の原因究明として実施する場合もあります。土壌分析によって土壌の状態を確認することは重要ですが、「何でも土壌分析をすればよい」、「分析すれば解決する」というわけでは

ありません。日頃から作物の生育状態などをよく観察することも大切です。

◆採取方法

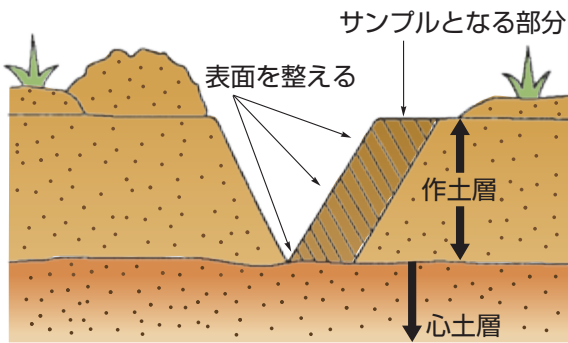
まず、各採土地点において地表面をスコップ等でこそげ取るように雑草などを取り除き、平らにします。次に、V字型に穴を掘ります。そして、根の伸長域である作土層の土をとります。少なくとも5箇所以上から土を採取し、それをよく混合して、

対角線採土法



対角線上の数地点を採取し、混ぜ合わせたものを試料とします。

採土する深さ（作土層の深さ）にV字に穴を掘る。



500グラム程度を土壌診断の試料とします。

◆採取した土壌の処理

採取した土は風雨、直射日光の当たらない場所で新聞紙などに広げて自然乾燥します。土を割ってみると中がまだ乾いていないことがあるので注意しましょう。乾燥機やドライヤーは使用しないでください。

◆土壌診断依頼について

土壌診断を希望される方は、各営農経済センターに『土壌診断依頼袋』がありますので、袋

◆土壌診断結果について

土を持ち込んでから分析して結果が出るまでに2週間〜1ヶ月程度要しますので、ご理解ください。尚、pH、ECについては、各営農経済センターにて簡易測定できます。

◆JAで分析できる項目

① pH

土壌の酸度の度合いを表しています。pH7を中性とし、それより小さいものを酸性、大きいものをアルカリ性と呼びます。ホウレンソウは酸性に弱いといったように、作物により生育に好ましいpHに矯正することが必要です。pHが低い場合、石灰成分を投入して酸度矯正を行います。石灰成分が多いにもかかわらずpHが低い場合もあり、他の診断結果と照らし合



